

来月3日に国府宮はだか祭



神男に触れようと激しくもみ合う裸男たち＝
2020年2月6日、愛知県稲沢市の国府宮で

もみ合い復活に 「歓迎」「感染不安」

愛知県稲沢市の尾張大国霊神社（国府宮）で二月三日に開かれる「国府宮はだか祭」で、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていた裸男のもみ合いが三年ぶりに復活する。地元では歓迎ムードが高まる一方、感染の不安から引退を決める高齢者も。全国では祭り後に感染が拡大した例もあり、専門家は「祭り前後の会食などが最も危険」としている。

（寺田結）

稲沢市在住の会社員加藤い。でも高齢になり、コロナで亡くなった人がいるとみ合いに出続けており迷い、もみ合いで厄を払う厄年なく参加を決めた。一方、もみ合いで意見が割れる。もみ合い歴五十年以上の同市の農業滝義雄さん（セ）は会社員堀田源造さん（四）は「自分と家族、地元の方の厄を背負うつもり」と語る

専門家指摘 前後の会食 最も危険

国府宮はだか祭
正式名称は難追（なおい）神事。世の厄災を一身に背負う祭りの主役「難負人（なおいにん）」（神男）に触れると厄を落とせるとされ、数千人の裸男が激しくもみ合う。例年8000～1万人の裸男が集まるが、今年は参加者を県内在住者らに限っており、減少する見通し。

が、同吉田智彦さん（四）は「家族にコロナをつつすのは怖い」と迷いを見せた。神社側は祭りのガイドラインで、裸男らに事前の検温やマスク着用、禁酒などを求めるが、一人ずつ確認するのは不可能だ。さらに、もみ合いになると身動きが取れないほど人が密集するため、愛知県立大の清水宣明教授（感染制御学）は「窒息を防ぐためマスクを外してほしい」と訴える。神社の担当者も「マスクを着脱は自己判断で」と話す。

清水教授はさらに、徳島市で昨夏、阿波おどりの踊り手八百人超が感染した事例を挙げ、「事前練習や打ち上げで感染が増大した可能性が高い」と指摘。リスクを自覚して参加するよう求めている。

山脇敏夫宮司（セ）は「無事に祭りを終えられるように、参加者には個人でできる限りの感染対策をしてほしい」と呼びかけている。